【基盤研究（S）】

大区分Ｊ

研究課題名　翻訳規範とコンピテンスの可操作化を通した翻訳プロセス・モデルと統合環境の構築

東京大学・大学院情報学環・教授　影浦（かげうら）　峡（きょう）

研究課題番号：　19H05660　研究者番号：00211152
キーワード：　翻訳コンピテンス、翻訳規範、機械翻訳、翻訳プロセス・モデル

【研究の背景・目的】

翻訳への需要は増加の一途を辿っており、世界的には翻訳養成大学院も増加している。ニューラル機械翻訳への期待も社会的には高い。実務翻訳における品質管理基準も整備されてきている。翻訳研究では規範とコンピテンスについて理論的枠組みを提供している。しかしながら、それらは適切に接続・統合されていないため、全体として翻訳実践は期待される進展を見せていない。問題の核心には、そもそも「翻訳」について、関連するアクター間の理解に齟齬があることがある。それは、翻訳の中核をなすプロセスの記述、それをめぐるコンピテンスと規範の記述が十分に具体的ではないことに起因する。

本研究では核心をなす問いを以下のように立てる。(1)翻訳実務における翻訳プロセスは、どのようなアクターのどのような行為とどのようなアイテムに対するどのような操作から成り立っているか？ (2)翻訳プロセスを構成する行為と操作の要素は、翻訳のどのような規範・コンピテンスと関係しているか？

本研究の目的は、これらの問いに答えることを通して、翻訳プロセスに翻訳規範とコンピテンスの要素を対応づけた翻訳プロセス・モデルを構築することにある。研究では、モデルの記述を担うとともに実務・教育プロセスで運用可能なメタ言語を定義する。また、翻訳プロセスの中で自動化可能な操作について処理メカニズムを開発・実装する。モデルとメタ言語・自動処理技術 の妥当性を、翻訳教育と翻訳実務における有効性の観点から実証評価する。

【研究の方法】

研究は、大きく、(1) 翻訳プロセス・モデルの構築と、(2) 技術開発、(3) 統合環境の構築、(4) モデルの評価の 4 フェーズから構成される。研究期間の前半はモデル構築と技術開発、後半は統合環境の構築とモデルの評価に重点を置くが、モデルが規範的な性格を有することから、構築・改善と評価を繰り返しながらモデルを精緻化する必要がある。そのため、重点期間はあるものの、研究開始時から研究期間全体を通して 4 フェーズを進めることになる。

翻訳プロセス・モデルの構築は文献調査とインタビュー調査・質的分析を中心にして行う。プロセスの記述とともにメタ言語を構築し、翻訳規範とコンピテンスを翻訳プロセスに割り付ける。

技術開発課題の中核は、起点言語文書要素の自動同定と翻訳仮説・資源の自動生成、および機械翻訳の自動評価と自動修正である。教師あり学習を中心に分析的手続きをタスクに応じて組み合わせて行う。

統合環境は、申請者らが開発してきたオンライン・プラットフォーム「みんなの翻訳」および「みんなの翻訳実習」をベースに段階的に構築する。

モデルの評価は、要素モジュール毎の評価と全体プロセスの総合評価ともに実験協力者による評価を中心に行う。自動化手法については評価データによる技術評価と翻訳プロセスに埋め込んだ実証評価を行う。

【期待される成果と意義】

翻訳研究がこれまで蓄積してきた理論的成果を翻訳実務と教育に接続可能なかたちで具体化する。翻訳プロセス・モデルを可操作化することでこれまでコースや教員のノウハウに依存していた翻訳教育の中核を体系化し規模の拡大を可能にする。実務翻訳における要求水準と納品品質のミスマッチを始めとする現実的な課題の解決に貢献するとともに、NMT をはじめとする先端技術の適切な利用を含む新たな翻訳サービスの展開に貢献する。MT の翻訳における適切な位置づけを明らかにし、関連技術を in vitro から in vivo に移行させる

モデル・メタ言語・環境・データは公開する。これらは基本参照資源として翻訳プロセスと翻訳教育プロセスの品質管理と改善に、学習データとして技術開発に資する。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

・Kyo Kageura (2019) “Assessing the status of technical documents as textual materials for translation training in terms of technical terms,” *Meta* 63(3), pp. 765-784.
・Kyo Kageura and Piao Hui (2018) “The status of explanation and the role of meta-language in translation training and translation,” *Ewha GTSI Conference*, Seoul, Korea, November 17, 2018. (Keynote Talk)

【研究期間と研究経費】

令和元年度－令和 5 年度
136,700 千円

【ホームページ等】

http://edu.trans-aid.jp/
kyo@p.u-tokyo.ac.jp